

全人類に平和な生活を願って！！

副校長 藤塚 正

多摩市は、「核兵器のない平和な地球をつくる都市」を宣言しています。それは、多摩市議会の名の下に永山北公園に表示されています。市長の阿部裕行様も常々、卒業式のメッセージの中に平和を願っての熱いお気持ちを皆様に語ってくださっています。令和元年（2019年）12月27日（金曜日）に、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部のホームページでホストタウンの第17次登録についての公表があり、多摩市が全国の自治体で初めてアイスランド共和国のホストタウンとして登録されました。アイスランド共和国は世界男女平等ランキングで11年連続世界第1位、環境パフォーマンス指数2018では世界第11位であり、男女平等参画社会や地球と人にやさしい持続可能なまちづくりを推進する本市と価値観などで多くの共通点があります。

また、ロシアのウクライナ侵攻で日々心痛める毎日ですが、7月24日（日）には、多摩市平和展 ICANのバラ贈呈式&講演会が開催されました。本校からは、生徒会役員の勝呂 柚さんが参加しました。当日は、市長阿部裕行様のお話と、イラン生まれで7歳までイランの孤児院で過ごされた戦争孤児の俳優サヘル・ローズさん、2017年にノーベル平和賞を受賞し、「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」の国際運営委員をつとめる恵泉女学園大学非常勤講師の川崎哲先生によるトークイベントが行われました。とても参考になるトークで参加された方々の心に響いた講演会になりました。当日頂いたICANのバラと瓜生小学校から頂いた東日本大震災を生きのびた「ど根性ひまわり」は平和の証として大切に多摩永山中で育てていこうと強く思いました。

多摩市平和展 ICANのバラ贈呈式&講演会に参加した 勝呂 柚さんの感想

8月6日、8月9日、炎天下の中で落とされた原子爆弾。その被害はとてつもないほどに大きく、今までの生活とは一変してしまう辛い出来事が77年前にありました。

日本列島は原爆を3つ落とせばなくなってしまうほどなのに、それ以上の威力を持った爆弾が今の時代は世界中にあります。それをなくするのはとても大変な事ですが、何年も何十年もかかるからこそ、私達のような子供が行動していきたいと思いました。

今からできることは沢山あります。その中の1つでも全力でやり遂げることが核兵器の無い平和な世界を作る力だと思いますので私にも他人事で片付けるのではなく、しっかり世界に目を向け、これからの未来のために少しでも行動できるように心掛けていきます。

そして、「核兵器での悲しい思い出や辛い思い出をもう二度とさせないように」という強く優しい思いを広く繋げていきたいです。



〈川崎様・勝呂さん・サヘル ローズ様〉

広島に行って考えたこと

多摩市立多摩永山中学校 1年 稲垣 鞠奈

突然ですが絵本の「スイミー」を知っていますか？スイミーは小さな魚が何匹も集まって大きな敵を追い払う物語です。私は平和運動はスイミーのようだと考えています。一人一人の声はとても小さい、けれどその声は何百、何千にもなればとても力のあるものになる。そして「not 世界平和」を打ち砕くことが出来ると考えています。

私はその一人になりたいと思っています。これは青少年平和文化イベントで知った「私たちは微力だけど無力じゃない」という言葉にもつながるのではないのでしょうか。

一日目、平和公園見学で波多野愛子さんに平和公園のモニュメントについて説明をしていただいた時、本の中では知ることのできなかつたそれぞれの意味を教えてくださいました。その時、特に私は「平和の鐘」のモニュメントの意味に心打たれました。



- ・鐘をつくところに原子力のマークがあり、原水爆を打ち砕くということ
- ・国境のない世界地図があり、世界は一つだという意味が込められていること
- ・心を映し出す鏡があること

そして「原水爆を打ち砕く」これは日本の目標であり、世界の目標。平和の鐘だけではなく、そのほかのモニュメントにもそれぞれ意味があり、「意味のないものなんてないんだな」ととてもすてきだと感じました。

袋町小学校ではヒロシマの被爆者の悲惨な現状を知り、15 トンもの医薬品を入手し治療に当たった「ジュノー博士」の資料を見ました。それを見て私は、「戦争は人の愚かさややさしさが一気に見える時だな」と思いました。本川小学校に行って、「三八歩兵銃」を見たときとても驚きました。今までたくさんの時が止まったような展示物を見てきました。けれどもこの「三八歩兵銃」は今まで見てきた展示物とは異なり本体から剥がれ落ちたかけらが周りに散らばっていました。私は、「時は止まっているように見えるが進んでいる。人々の記憶は進み歩兵銃の様に風化する。」と感じ取り「銃を展示し人々に戦争の恐ろしさを知ってもらっているのと同じように、私達も戦争の恐ろしさを後世に伝えていかなければならない」と思いました。

まだまだ書き足りないほどのたくさんの貴重な体験して私は「多摩市こども被爆地広島派遣事業」に参加し、ヒロシマに来られて本当によかったですと思っています。そしてそれを、活動が始まったときから今この作文を書いているときも感じています。この先、私は貴重な体験を自分だけのものにするのではなく、多くの人に言葉や文を通して伝えていきたいです。



〈本川小学校平和記念資料館〉



〈三八歩兵銃〉

大谷 翔平選手のような相手を思いやる気持ちを大切に・・・

トラブルや喧嘩・紛争の防止に向けて、まずは相手理解と相手を思いやり、話し合いで解決出来ることがとても大切と思われます。大谷選手の活躍は、私達に、とてつもない勇気と活力を与え続けてくれています。ベーブ・ルース以来の104年ぶりの2桁ホームラン、2桁勝利。その他、数々の記録を世界の舞台で繰り広げていますが、心温まるシーンがありましたので、ご紹介します。

8月13日、エンゼルスの大谷選手は、アナハイムでのツインズ戦に「2番・指名打者」でフル出場し、8回に26号ソロホームランを放つなど4打数1安打1打点の活躍で、チームは延長11回、タイブレークの末に5-3でサヨナラ勝ちしました。

この日の相手チームの選手の妹のお話です。0-3の8回2死、エンゼルスの大谷選手の打球は高く上がり、中堅手がジャンプして伸ばしたグラブの先をわずかに白球は超えていきました。「普通はフェンスを越えない」とネビン監督代行をうならせる、反撃のソロ本塁打となり、スタジアムは大歓声に包まれました。この日は、エンゼルのロゴを大谷選手の背番号「17」に変えたオリジナルの帽子が配られるなど、大谷グッズ効果もあり、同じ土曜日の前回の試合よりも、約1万人多い4万3027人が詰めかけてました。

その中に、ツインズの「2番・遊撃手」で先発したコリア選手の妹もいました。彼女は、大谷選手の大ファンで、この日が14歳の誕生日。試合前、妹思いの兄と両球団の協力で対面が実現しました。コリア選手によると、大谷選手のユニフォームを着てきた妹はサインをもらい、写真を撮ってもらおうと号泣したそうです。そして、一生懸命勉強している日本語で大谷選手に直接メッセージも伝えました。「妹は大谷選手に夢中。僕はそれがうれしい。大谷選手は毎日のように歴史を作っている男で、まさに偉大なお手本だから」とコリア選手。試合では、優しい兄も本塁打を放ち、大谷選手とアーチの競演を果たしました。

【部活動戦績等 7・8月】

◆バレーボール部◆

◎ 第48回 多摩市民バレーボール大会

・7月30日(火) 会場：多摩市総合体育館

第3位

- 25-13 (多摩永山中 対 鶴牧中)
- 24-26 (多摩永山中 対 和田中)
- 25-23 (多摩永山中 対 諏訪中)
- 25-14 (多摩永山中 対 東愛宕中)

三位決定戦

☆ 年間最優秀選手賞 領毛 芹佳

◎ 第75回 武相バレーボール大会

・8月28日(日) 会場：町田市立総合体育館

第3位

- 25-9 (多摩永山中 対 つくし野中)
- 25-23
- 25-10 (多摩永山中 対 南大谷中)
- 25-20
- 13-25 (多摩永山中 対 忠生中)
- 14-25

◆ソフトテニス部◆

◎ 第72回東京都中学校ソフトテニス選手権大会

・7月24日(日) 団体戦

男子 会場：舎人公園

- 1回戦 対調布市立調布中学校 ○ 2-1
- 2回戦 対青梅市立新町中学校 × 0-2

◆男子・女子バスケットボール部◆

◎ 第3回 多摩市バスケットボール交流大会

会長杯

男子の部 準優勝

女子の部 優勝

優秀選手賞 男子 木下 羽琉

女子 辻 春花

◆陸上競技部◆

◎ 第34回東京ジュニア陸上競技大会

・8月28日(日) 駒沢陸上競技場

女子3年 3000m 第7位 松田 悠楽

10分44秒50

◆ソフトテニス部◆

◎ 東京都中学校ソフトテニスU-14step2選考会

・7月27日(水) 個人戦

増見 陸太・渡邊 宗輝ペア出場

◎ 第7ブロック日南支部中学校ソフトテニス1年生対象審判講習会

・8月27日(土) 個人戦

男子 会場：多摩永山中学校

吉田 豪希・鈴木 碧大ペア ベスト4

林 怜央・内藤 蓮成ペア ベスト8

鏑木 海斗・林 輝音ペア ベスト8

女子 会場：日野第二中学校

田中 桃音・百瀬 葉那ペア ベスト8

◆剣道部◆

◎ 令和4年度 日南地区夏季剣道大会

男子個人 明田 悠弥 優勝

男子団体 優勝

女子団体 第3位

【先生だって負けてない】

◆宇野 友貴 教諭の力作◆

読売新聞社後援、清新会主催の書展が、8月26日(金)～28日(日)に、町田市立国際版画美術館で、開催されました。「伝統と創造」第1回 清新会書展で、1階の市民展示室の中で一番大きく、そして一番輝いていた宇野先生の作品を紹介します。

(当然、お母様の作品も、読売新聞社賞を取られた素晴らしい作品でしたが、「息子に越されてしまいました。」とおっしゃっていました。)

書道は、何度も書くのではなく、1回で仕上げる集中力が必要だそうです。「突破」という作品でした。どんな困難も宇野教諭の作品から突破できそうな勇気が伝わってきました。

作品は、縦170cm、横140cmでした。



ICAN のバラやど根性ひまわりから平和の証として植物・果樹等を育てていきます。

2050年の多摩永山中学校の敷地未来図構想（案）

多摩永山中学校
副校長 藤塚 正



1 多摩永山中学校 敷地法面の再構築（近い未来に松は全滅します。東側法面の常緑樹、落葉樹のみになります。）

2 運営方法

- ① 地域住民エリア（学級生徒花壇<卒業生生徒花壇>）
家から近いところの法面の養生を継続的にする。生産物は、持ち帰り。
- ② 有識者専門職エリア（農家の方等の有識者の指導を得ながらの養生）

3 課題（雑草対策と地域住民の協力、持続的な活動）

- ・あらゆる方法で広報活動する（地域住民へのポスティング）
- ・卒業後も生徒、保護者が学校と関わりあう。（持続可能な活動）
- ・雑草対策（業者の下刈りで育つ果樹の栽培）
- ・担当エリアの表示と植樹、植物名等の表示
- ・アウトプット連携（余ったひまわりの種の利用<町田リス園、多摩動物公園等>）
- ・体験活動を楽しむ（干し柿作り、カブトムシの養殖、養蚕体験等）
- ・多摩市役所との連携（公園緑地課等）



<瓜生小学校から引き継いだど根性ひまわり>

